

私の好きな二つのこと

5組 アソ テウソ

人々は自分の好きなことをするためにいっ  
しょうけんめいに努力する。しかし、現実には  
自分の好きなことばかりをして生きることは  
易しくない。

私は好きなことが二つある。それはラップ  
と数学だ。ラップはヒップホップの四大要素  
の一つで、拍子に合わせてリズム感と韻を生  
かして話すように歌う音楽の形式である。一  
千九百八十年から迫害を受けていた黒人たちが  
表現したものである。

私がラップに初めて接するようになったのは  
中学生の二年生の時、エミネムと言うアメ  
リカのラップ歌手の歌を聞いてラップに夢中  
になった。高校に入学してヒップホップのサ  
ークルに入って私の好きなラップができてと  
ても嬉しくて幸せだった。

しかし、勉強は後にしていつまでも耳にはへッ

ドフォンをつけて、手には五線ノートとペン  
を持って作詞と作曲にだけ気を取られていた  
ので、学校の成績は当然悪かった。

高校三年生になった時、私は大学受験を思  
うと心配になった。それでラップよりは大学  
受験の方が先だと思って勉強をすることにし  
たが、ラップに対する私の心は切ることので  
きななかった。勉強すると言いながらもこっそり  
歌詞を書いたり音楽を聞いたりしていたの  
で結局大学に落ちてしまった。

軍隊へ行く前の六ヶ月の間、私は好きなラ  
ップがしたくて友達とヒップホップで有名な  
韓国のソウルにある弘大へ行って路頭で公演  
をしたり、有名な歌手にラップも教えてもら  
ったりしていた。すると、韓国で有名なダブ  
ルケイと言うラップ歌手からアツダーグラウ  
ソドと一緒にやってみないかと誘われた。私  
は喜んで弘大のアツダーグラウソドのラップ  
歌手になった。舞台上でマイクを持ってラップ  
が歌えたのでとても嬉しくて幸せだった。私

にいつが一番幸せかと聞かれたら、初めてマイクを持って舞台上に立った時だと言えるほどラップが大好きだ。

時間が経って軍隊に入隊した。私は軍隊でいろいろと悩むようになった。果たして音楽で成功することができるかラップで一生幸せになれるかと言うことをたくさん考えた。一年十ヶ月が過ぎて私は軍隊を終えた。その後も私はラップを続けていたが、家族にラップ歌手になりたいと言う勇氣はなかった。

ある日おばに日本の留学を勧められた。いろいろ考えた末私はラップ以外の道にも進んでみたいと思っ、て日本の留学をすることにした。韓国ではあきらめていた数学の専攻の夢を日本で叶えてみたいと思っ、た。

高校の時、私はほかの科目は熱心に勉強しなかったが、数学だけは熱心にした。数学の問題を解くたび気持ち良くて公式を証明していく過程がおもしろかった。本を読む時も数学の本ばかり読んだ。数学の本を読むと昔

の数学者たちがいろいろな公式を見つけるために苦勞した様子がとてもすてきで尊敬していた。だから私は日本の大学で数学を専攻してもう一つの夢である数学の先生になりたいのだ。

私はまだ二十代だ。二十代という理由だけでも挑戦するのに十分な年だと思う。今は数学を専攻するために熱心に勉強しているが、ラップもやめたくない。確かに人々は年を取ると自分の好きなことを諦める人がたくさんいる。それは就職もしなければならぬし、結婚もしなければならぬし、他の人のように生きたいからだと思う。しかし、私はやめるつもりはないのだ。ラップと数学を両立して生きるのはすごく難しく大変なことかもしれないが、私は自分の好きなことをずっとやりながら生きるのが私の一生の望みである。自分の好きなことをしながら生きることほど大きな成功はこの世になりたさう。私は自分の夢のために前に向かっていくつもりだ。